

2019 年版 アスパラガス病害虫防除暦【露地作型】

安全・安心な農産物生産のために 防除・使用基準を厳守しましょう

JA中野市営農センター

散布日	散布回数・時期		散布薬剤(水 100ℓ当り)		使用時期	散布量(ℓ)	対象病害虫 (発生病害虫)	注 意 事 項
／	1	立茎開始 3 日前	展着剤 (ハイトンパワー) ベンレート水和剤	20ml 50g	前日	200	茎枯病・株腐病	茎枯病の多発圃場は、収穫打切後、全刈りを実施し、すぐに第 1 回目の薬剤を畝面全体に散布し、乾いてから 5 cm 以上の盛り土後、芽の高さが 2 ～ 5 cm 程度のときに 2 回目の薬剤散布。その後 5 日以内に 3 回目、4 回目の薬剤を丁寧に散布する。 アミスター 20 フロアブルは、①展着剤は使用しない。②薬液が乾きにくい条件下(夕方・曇天時)では使用しない。③雨露等でアスパラがぬれている状態では使用しない。④薬剤耐性が生じやすいので連用しない。
／	2	第 1 回散布後 5 日以内	展着剤 (ハイトンパワー) ダコニール 1000	20ml 100ml	前日	200	茎枯病・斑点病・褐斑病 疫病	
／	3	第 2 回散布後 5 日以内	アミスター 20 フロアブル	50ml	前日	200	茎枯病・斑点病・褐斑病	
／	4	第 3 回散布後 5 日以内	展着剤 (ハイトンパワー) モスピラン顆粒水溶剤 ベンレート水和剤	20ml 25g 50g	前日 前日	200	アブラムシ類・アザミウマ類 ジュウホシクビナガハムシ 茎枯病・株腐病	
／	／	特別散布 疫病対策	春どりのみ	フォリオゴールド	100ml	7 日前	疫病	土壌病害(疫病)が心配される園地で株元散布する。 展着剤(アビオン E)を加用する。
		夏秋どり	プロポーズ顆粒水和剤	66g	前日			
／	5	6 月中下旬	展着剤 (ハイトンパワー) コサイド 3000 コルト顆粒水和剤	20ml 50g 25g	前日 前日	300	茎枯病・斑点病・褐斑病 ネギアザミウマ・カスミカメ、 (アブラムシ)	春どりのみの場合はコサイド 3000 をジマンダイセン水和剤 (500 倍) に変更する。 ※ジマンダイセン水和剤は露地栽培の収穫終了後の使用に限る。
／	6	7 月上旬	展着剤 (ハイトンパワー) ダントツ水溶剤 ベンレート水和剤	20ml 25g 50g	前日 前日	300	アブラムシ類・ネギアザミウマ ジュウホシクビナガハムシ・カメシ 茎枯病・株腐病	草勢維持のため状況により、薬剤散布と併せて 7 ～ 8 月はアミノメリット特青 500 倍の葉面散布を行う。 (その場合展着剤不要)
／	7	7 月中旬	展着剤 (ハイトンパワー) コサイド 3000 コテツフロアブル	20ml 50g 50ml	前日 前日	300	茎枯病・斑点病・褐斑病 ハダニ類・オオタバコガ ハモンヨウ・(アザミウマ類)・ ジュウホシクビナガハムシ・ヨウムシ	コアオカスミカメの発生が多い場合は、ダントツ水溶剤、ウララ DF 水和剤、コルト顆粒水和剤、のいずれかを散布する。
／	8	7 月下旬	アミスター 20 フロアブル プレオフロアブル	50ml 100ml	前日 前日	300	オオタバコガ・ハモンヨウ ネギアザミウマ・ヨウムシ 茎枯病・斑点病・褐斑病	春どりのみの場合はアミスター 20 フロアブルを、ジマンダイセン水和剤 (500 倍) に変更する。 ※ジマンダイセン水和剤は露地栽培の収穫終了後の使用に限る。
／	特別散布 疫病対策		プロポーズ顆粒水和剤	66 g	前日	300	疫病	春どりのみの場合はフォリオゴールド 1,000 倍 (収穫 7 日前) でも良い。
／	9	8 月上旬	展着剤 (ハイトンパワー) ディアナ SC コサイド 3000	20ml 20ml 50g	前日 前日	300	アザミウマ類・ハモンヨウ・ オオタバコガ 茎枯病・斑点病・褐斑病	ダニの発生が多い場合は、コロマイト乳剤 (1000 倍) を単剤で散布する。
／	10	8 月下旬	アミスター 20 フロアブル アディオフロアブル	50ml 66ml	前日 前日	300	茎枯病・斑点病・褐斑病 ヨウムシ・ハモンヨウ・ (ヒラズハアザミウマ・アブラムシ類)	薬害回避のため展着剤は入れない。
／	特別散布 斑点病対策		ラリー水和剤	25g	前日	300	斑点病	展着剤 (ハイトンパワー) を加用する。
「次年度の収量確保に向けて」9 月以降は薬剤散布と併せて PK ゴー 3,000 液を葉面散布 (展着剤必要) する。								
／	11	9 月上中旬	展着剤 (ハイトンパワー) ダコニール 1000 コテツフロアブル	20ml 100ml 50ml	前日 前日	300	茎枯病・斑点病・褐斑病 疫病・ハダニ類・ヨウムシ・ オオタバコガ・ハモンヨウ・ (アザミウマ類)	土壌病害(疫病)が発生している場合は、ダコニールに代えてプロポーズ顆粒水和剤の 1500 倍を散布する。
／	12	9 月中下旬	展着剤 (ハイトンパワー) プレオフロアブル ベンレート水和剤	20ml 100ml 50g	前日 前日	300	オオタバコガ・ハモンヨウ ネギアザミウマ 茎枯病・株腐病	春どりのみの場合はベンレート水和剤を、ジマンダイセン水和剤 (500 倍) に変更する。 ※ジマンダイセン水和剤は露地栽培の収穫終了後の使用に限る。
／	13	10 月上中旬	展着剤 (アビオン E) ベルコート水和剤	100ml 100g	収穫 7 日前	300	茎枯病・斑点病・褐斑病	薬剤持続性を高めるため、展着剤アビオン E を添加する。 オオタバコガの発生が多い場合はディアナ SC を加用する。

- (注) 1. パーナーによるアスパラガスの残茎や土壌表面の焼却は茎枯病等の予防効果があり、毎年発生の多いほ場は実施する。
2. 収穫期間中、害虫の発生が見られる場合は、モスピラン顆粒水溶剤、ウララ DF、アディオフロアブルを散布する。
3. 散布間隔があく場合(収穫打切りの早い園地等)や連続降雨後の定期防除の合間の防除に、コサイド 3000 の 2000 倍液を散布する。
4. 農家在庫で IC ボルドー 66D がある場合は最終消毒に使用してもよい。但し PK ゴーは混用しない、メリット赤と混用する。
5. PK ゴーと薬剤を同じ容器に少量の水で溶かすと凝固する恐れがあるので、別の容器に溶かしてから散布する。
6. 対象病害虫の(発生病害虫)は、アスパラガス以外の品目で対象となっているもの。

当防除暦の複製・コピーの禁止